

200618 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第35回）
（名古屋市民オンブズマンによるメモ）

13:00

鈴木保存整備室長：はじめる 司会

松雄より挨拶

松雄局長：忙しい中、雨の中ありがとう

新型コロナは名古屋は落ち着いているが

心苦しい

遺構の毀損事故再発防止策

文化庁とも相談して案として取りまとめた

なるべく早く市長に報告を上げ、文化庁にも報告したい

石垣修復 新たな工程案も意見をいただきたい

一歩でも前に進めたい

本会議の準備があるのでこれで失礼したい

鈴木室長：局長は退席する

出席者紹介

写真・ビデオの撮影はこれまで

資料の確認

報告 遺構毀損現地調査

村木副所長：報告する

3月に起こした遺構毀損

第一歩として、現地の状況を把握する調査を計画

それぞれ別に有識者に聞いてまとめる

今回は現状報告

六番蔵東辺

全体に不適切だったのではないかと 資料1-1

①～⑤

①現状変更許可申請に記載ない掘削を行った 1-1～3 資料1-2

②立ち合いなく掘削 紫色五番蔵

③範囲を超えて発掘 ます右肩 瓦の遺構

④立ち合いなく掘削 グレーの網

⑤立ち合いなく撤去 薄紫 U字溝

毀損事故以外に不適切

それぞれについて、資料1-4 対応策

すぐに対応する必要がある ① 今回毀損地点以外に調査が必要

②五番蔵 毀損したか確認する

資料1-5 六番蔵 掘削しない限りで調査した

資料1-16 赤い色を調査したい

毀損の中を精細に調査したい 元に戻るか

調査実施 細心の注意を払う

13:16

鈴木室長：一つ目は以上

ご意見があれば

よろしいでしょうか

ご意見がないようなので、石垣修復について

名古屋城：逆石安定性実験

資料2-4

資料2-5

資料2-15

資料2-11

資料2-14

資料2-15

資料2-19

(千田 13:26退席)

13:29

石材の再利用について 資料2-25

13:33

鈴木室長：逆石、石材 現時点での検討結果

意見は

報告なのでこれで終了

宮武：今後検討する？

自覚を共有 逆石 不安定要素がある 野面積みより安定しているのはあたりまえ

資料2-25 どっちに帰属するのか？

逆石には帰属してはいけない

不安定 我々が考えるだけ 文化財としてあり

ダメージが少ない方法 400年前の石工が悩みながら作った構成要素

耐久力 半分くらい弱い→だから差し替えましょうではない

アンカーを打ち込んだり プラスアルファ 破壊行為を行ってしまう

前から押さえる そこを踏まえて選んだ バランス

立面 逆石はどこか？表示しているか？

名古屋城：表示していない

宮武：逆石は何個あるのか

名古屋城：8石

宮武：位置は？

名古屋城：上のほうにもある 一か所にあるわけではない
下のほうが並んで

宮武：どのあたり

名古屋城：東面 このあたり

宮武：ここに集中している？検討が必要

並んでいることは通常ない

高い位置でダメージ 前から押さえるのは現実的ではない

別に問題が発生する

前から押さえることも現実的にある

くれぐれも不安定は間違いないが、特別史跡を構成する要素だ

取り扱いを考えてほしい

西本さんが整理していただいた

前回現場 もともと作業する前 黄色は重大な損傷

資料28-19 青いのは解釈を変えた？色は同じ黄色？

西本：判定を変えないといけない

31が色を変えた

宮武：三段階あるのかわかった

これが正しい

部会で踏み込んでやらないといけないのは隅角部

組み合わせを考えないと 個別に検討する

検証は進んでいるなという印象

北垣：逆石は文化財

科学的、工学的解析は大切

例えば 前面から押さえている

石垣は不安定に見えるがそういう歴史

今日は忙しいのでそれくらい

鈴木：その他は

宮武：熊本城でも議論になった

逆石変えたい→これは優先的に守っていこう
現場はびくびくしている
方針としてはそうしないといけない
ほかの城でも同じ

服部センター長：これは報告なので意見を言う場ではない

北垣：最低のことを言っている

服部：熊本城 円弧滑りが原因と言われている

議題ではない

宮武：かわす方法があるから安易にしないで

服部：また別の機会にやっ

鈴木：2つ目は以上

議事に移る

ここからの進行は座長に一任

13:45

北垣：1時間少々 トイレ休憩もある

議事2つある

1 遺構毀損事故再発防止対策について

名古屋城：再発防止対策について事務局より説明

資料3-3 深くお詫び

管理団体として、すべてが甘いと批判されても致し方ない

3-8

東石と思われる→礎石に訂正

3-9 関係者所在位置 執務室で事務作業

学芸員 別の場所で記録などの作業 死角だった

3-10 現状変更許可通知書 立ち会うこと

3-11~17 問題点とその原因

ポイントを7つに整理 3-17

- ・試掘調査 十分と言えなかった
- ・掘削しないよう設計すべき→掘削した
- ・立ち合いの必要性 認識が甘かった
- ・組織的に「認識は違うのでは？」チェックが働かなかった
- ・作業内容を把握していなかった
- ・直下遺構を業者に伝えなかった
- ・有識者に諮るチェックがなかった

資料3-18

- ・考え方の共有が不十分
- ・役割分担が甘かった
- ・チェック機能が果たされていなかった
- ・工事監督・立ち合いが適切に行われなかった
- ・特別史跡の認識が甘かった

資料3-20 対策の基本原則

資料3-26 外部監査制度の導入

資料3-27 石材66個が外れた

二度と起こさない

資料3-29 フローチャート

チェック項目

14:00

北垣：ありがとう

報告の中であった、遺跡の毀損現地調査について

本日の議事の中で再発防止対策 全体について総合事務所としての
現在の見解としてどう具現化するか 対策 踏み込んだもの
各委員のご意見をいただきたい

宮武：今気づいたが、赤羽先生に確認したい

わからない点

資料3 経緯 全体整備検討会議に諮っている

それほどディスカッションしている記憶がない

頻繁に検討している？

平成31年3月→試掘調査

7年たって調査

表示して

あくまでも西の丸開発行為の計画から始まっている

それについては親委員会に諮ってきた

6番蔵 遺構がありそうだと7年たって発掘したらあった

それを守る議論がなかったのではないか

赤羽：平成24年12月 試掘調査

そのとき全体の委員 試掘調査は立ち会った

今から思うと自分自身も後悔 現状把握しなかった

その段階では今日話題となっているような六番蔵、五番蔵

西の丸整備についての話題は議論されなかったという認識

展示館 どういう風に作るか 地下遺構を探っていた

今日のような六番蔵、五番蔵のような表面展示 当初から話題になっていない

宮武：そこが原因だったのをはじめて気づいた
オウンゴール 表面展示は各地でやっている
スタートのときは眼中になかった
遺構が現存していて、調査しないといけない
遺構表示が後追いで入ってきたから
システムより前に、特別史跡の中に作るには下から何か出ますよ、に
立っていなかった
原因的にはその認識を共有 確認することが重要ではないか
遺構の想定がなかった 中途半端になった
何をやるにしても、特別史跡の中 土一つでも特別史跡
はじめて気が付いた

北垣：大事なきっかけ
報告 これはこれからどう進めていくか
センターの役割が重視されていく
宮武先生言われたこと 進めていく際の原点として位置づけ
それでよいか

赤羽：資料3-10 文化庁
「職員の立ち合いを求めること」
3-29 フローチャート
監督立ち合い 備考欄 日々の立ち合い
「日々はセンター、節目は文化財保護室が」
節目とは？
一般的にはセンター、ことがあるときは文化財保護室
それでよいのか？
文化庁としては「わかりました」？

文化財保護室長：許可条件をいただく際、教育委員会が副申をつける
「教育委員会が立ち会う」
現実に、これまでも運用としては日々はセンター
節目節目は教育委員会が立ち会う
正確に文化庁にお示しする
文化庁とも調整しながらやりたい

赤羽：そうしたい、という段階か
文化庁には説明したのか？

文化財保護室長：こういう案でまとめていく、と説明している

宮武：以前までどうやっていたか

副申 差し替えして？はあるのか

どれくらい文化財保護室がチェックしたか

文化財保護室長：申請が出る前にチェックした

出てきたものを却下するというのではない

宮武：議論が必要ないくらい、事前に議論していたのか

右から左に通っていたのか

文化財保護室長：一緒に検討した

協議の時間がなかなかとれず、チェックがおろそかになった

背景がある

宮武：フローチャート 二段階

設計の段階で文化財保護室長はでていない

文化財保護室長：設計の時点でコミットしたい

宮武：副申を作る際の矛盾がなくなる

平成 23 年工事 いつからでてきたのか

全体整備検討会議にはでてきたのか？

文化財保護室長：相当前なので、即答できない

宮武：復命書ひっくり返して、いつからかわっていたか

施工計画の段階からはいっていかないといけない

開発行為がスルーされていたのが原因ではないか

総合事務所、埋蔵物を意識していなかった

どこから関与されて、どの段階から

「遺構があるから待って」

当たり前のことを書いてある

普通の文化財対応ができなかった

守れるかどうか

文化財保護室長：過去にさかのぼったときの状況は説明できない

担保されることが重要

北垣：予定より 20 分すぎた

5 分くらい休憩

14：19

14：25

北垣：再発防止対策 明確に出されている

宮武先生御指摘 守れるかどうか

実効性を高めていく 処方箋に近い

これを方針を確定する もう一度どうやっていくか

経験が乏しければ乏しいだけ 実効性確保のため、どのようにすればよいか

組織全体としてやらないといけない

素案については、中間報告ということで置かしていただいて、

次回最終案を出していただければどうか

赤羽：素案は、来週の全体整備検討会議

石垣部会に諮って了解いただいた、とするつもりか

佐治：今日の部会で了解いただいて、

全体整備検討会議で諮って了解してから文化庁に出したいと思っていた

赤羽：既存の状態と今後の修復方針はないほうがよいのでは

推測の部分

これからどうするか

再発防止とは異なっている

石列 調査しないとわからない

むしろ再発防止には不適當ではないか

宮武：このページは部会のマターではない

修復検討のマター

全体整備検討会議にぶら下がっているもの

部会で報告してはいけない

親委員会に報告

完全に分けないといけない

フローチャート

全体整備検討会議の中 調査研究センターに一元される

→言い方を変えれば、第三者の関与がなくなる

他の事例 特別史跡の中で開発

県がある

第三者がトレンチを入れて、判定している

その判定をするほうも同じ屋根の下の事業

第三者チェックがない

なんとかならないか

通常開発工事 地元教育委員会→それを

このままいって大丈夫か？

名古屋市 組織的特徴を含めて議論してはどうか

北垣：口が滑った

もともとここで決定するものではない

親委員会で本来的には整理していく

検討している段階

所長が言うように、もう一度この議論を整理して、それをまとめて

親委員会に提示してほしい

そうなってくると、赤羽先生が言うように、資料3-27

取り扱いを合わせて検討してほしい

我々としては検討させていただくことができた

結論が出るというのはおかしな話

部会でやっていくことではない

制度的なものを検討させていただく

赤羽先生いかが

赤羽：はい

北垣：1番目の議題はこれで置かしていただく

「新たな工程」の案

14:34

名古屋城：説明する

考え方に誤りがないかご意見をいただきたい

解体と復元を一体で取得するイメージ

20/3/31時点のもの

新型コロナで2か月遅れている

応急的な措置、現状変更許可に要する期間

工程は延びることもあれば短くなることもある

復元検討委員会 2年半を見込んでいる

14:42

北垣：ご意見を

宮武：議事 承認に基づいて全体に諮りなおす

石垣部会としてうんというかということ

穴蔵石垣調査が書いてある

穴蔵石垣の解体とはどこをイメージしているのか

名古屋城：現天守解体し、上から解体

穴蔵部分 SRC 鉄骨、柱が穴蔵と接する、食い込んでいる部分

解体と合わせて調査する
その部分について先生と相談して工法決める
調査しながらやる

宮武：解体できるかどうかはこれから
さっきの議論に戻る
下の部分を守る 議論に立っていないから毀損事故
調査する→また起こす
軽々に解体するじゃない
どんなフローチャート作っても守れない
文化庁に持っていくんでしょう？

名古屋城：申し訳ない

宮武：注意しないと
発掘調査する 2種類
・なくなるから記録→特別史跡ではありえない
・保全するためデータをえる調査
解体するための発掘調査をうたっている
さっきのフローチャートと一緒に持っていくのは矛盾
発掘調査 内堀、石垣 「こういうことをしないと安定しない」自然
それをもとに現状変更調査

名古屋城：今現在、説明足りずに申し訳ない

基礎構造の検討 青色 竹中と名古屋市 検討している段階
基礎構造の検討において、石垣に影響を与えない工法を考える
そのうえで、解体できるか、解体による石垣影響を踏まえ
解体してはいけないのではないかと検討を進めている
私の説明がわるかった スタート
もしできた場合 穴蔵石垣も含め、いかに影響を与えない方法

北垣：ご意見は

西形：工学的

宮武先生からご意見
天守台石垣追加調査 近々に始まる
保全のための対策につながる
具体的な目的と内容

村木：石垣詳細調査を受けて

3月石垣部会 レーダー探査 北面ハラミだし部分

まだ外観調査の修正 天守台はできた
御深井丸 修正の途上
先生方とも相談して、御深井丸の劣化の状況
必要なものを
具体的には北面レーダー 劣化対策

服部：穴蔵 写真が出てきた
想像もつかないくらい劣化している
石垣も変わっている
明かり窓 新しい石になっている

宮武：失礼ながら
先に計画に出したらまずい
だいぶん痛みがひどいのは承知
どうせできるだろう→今回の毀損事故を起こした
ここで出してはまずい

服部：調査してはいけない？

宮武：ぼろぼろだから大丈夫だろうといっても、
調査してもないからわからない

服部：新しい昭和の石垣

北垣：以前から、特別史跡の本質的価値は石垣にある
それを保全するためにはどういう手立てがあるか
上に建物をつくるという案
現在残っている石垣にうまく乗るのか？
きちんと議論していない

村木：穴倉石垣の解体

昭和に手を加えているだろう
前提と書くのはおかしい
表記の仕方
昭和のものをどうするか

北垣：よろしくない

前提にたつ検討がされていない
そういうことになればそうなる
ちょっと
現状変更許可 穴蔵石垣の発掘調査はないでしょう

まだ言っていない
よろしくない
とってもらって、事前の検討を早急にしないと
服部所長がおっしゃること ここでは置いてもらう必要がある

村木：下から２段目 穴蔵石垣試掘調査
穴蔵石垣発掘調査を踏まえて、
昭和の穴蔵部分は解体したい
前提的に解体するという書き方は検討する

赤羽：工程表 天守閣木造復元が実現可能な手順、工程とする
地元有識者会議、実施修正設計
石垣部会でこの話がでた
石垣については 木造復元しようがしまいが、石垣の保全は重要
遺構保全 石垣保全方針 応急対策
木造復元を作るため？私たちはそうではない
名古屋城の本質的価値を持つ石垣を保全されるのが大切
石垣を危ない状態である 御承知の通り
それをどう保全するか 私たちが考える
工程表 ある意味では石垣遺構保全 名古屋城の新たな工程
天守閣木造復元とはすれ違うというか、言い方がわからないが
こういう工程でやっていくということでしょうが、
あくまでも石垣の保全を前提に考えている
その石垣に関する様々な日程 「新たな工程」に含めることに
なんて言ったらいいかわからないが
全体の、点線の柱が多い こういう段取りで行くんだらうが、時間
ボリュームが読めていない 僕らは見るしかない
あくまでも工程案にしか過ぎない
石垣部会としてどうでしょうかと問われても、答えようがない
石垣を保全するという工程表ではなく、木造復元が目標 工程案
石垣保全という観点では「そうですか」とは申し上げられない

15:01

北垣：ほかには
3時ということ 厳守のはず
そうなると、数分すぎている
新たな工程 色付き
少なくとも穴蔵石垣発掘調査

建物の関係がどうなるか 出てこない以上、結局何が載ってくるのか
全然具体的なものが出ていない
穴蔵石垣発掘調査 点線で書かれていること自体が
そういうことで、時間が来た

宮武：表題は考えたほうがよい
文化庁に現状変更を取得する手段 何でもよい？
石垣解体ありきのスケジュール
いったん現状変更許可を得たら何をやってもよい？
そこは考えられたほうがよい

佐治：ありがとう
なんのための調査
また説明したい

北垣：事務局に返す

鈴木：まとめ

村木：1番 毀損現地調査 問題ない 報告だけ
2番 絡め手 逆石も含めて特別史跡
3番 毀損再発防止策
修復の方針 対策案に載せるのは適切ではない
4番 穴蔵 表記の方法 意見 よく精査して
あらためて説明したい
タイトル よく考えたい
赤羽 木造復元と石垣の取り扱い すれ違いがあるのでは？

宮武：フローチャートを実効性があるものに

村木：了解

佐治：再発防止策は文化庁から意見があった

宮武：壊れたことを復旧する 部会を横断して

ここでの審議ではない

フローチャートなど審議

一緒にしちゃうとダブルスタンダードになりかねない

村木：再発防止策は全体に諮りたい

鈴木：長時間ありがとう